

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」湖西校（第2教室）		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 21日 ～ 2025年 11月 4日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○従業者評価実施期間	2025年 10月 21日 ～ 2025年 10月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日本人職員とブラジル人職員で構成された多国籍なチームであり、外国籍の子どもが多く在籍し、日本の保育園・幼稚園・学校に通う子どもたちの支援に対応できる点が強みである。 言語や文化の違いに配慮しながら支援を行い、チーム全体で柔軟に対応している。	言語の壁により一部の会議の実施が難しい場面はあるが、職員同士が役割を分担し、それぞれの強みを活かして子どもたちの支援にあたっている。 また、日常的に情報共有を行い、子ども一人ひとりの状況に応じて協力しながら支援を行っている。	今後は、職員間のコミュニケーションをより円滑にするための工夫（簡易な通訳ツールの活用、共有資料の工夫等）を検討し、会議や情報共有の質の向上を図る。 あわせて、多文化環境における支援力をさらに高め、外国籍の子どもたちが安心して成長できる支援体制の充実を目指す。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員が日本人と外国人で構成されているため、言語の違いによるコミュニケーションの難しさがあり、情報共有や会議の実施が十分に行えない場合がある。 また、利用児童数の増加に対して、職員体制や施設スペースが十分でない点も課題である。	多国籍な職員構成により、共通言語での円滑な意思疎通が難しい場面があること。 また、専門職の人材不足や施設の構造・面積の制約により、支援の幅が限定されていることが要因として考えられる。	職員間のコミュニケーションを円滑にするため、簡易通訳ツールの活用や情報共有方法の見直しを行う。 あわせて、職員体制の強化や専門職の確保、施設スペースの有効活用および将来的な拡張について検討し、支援体制の改善を図る。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」湖西校 (第2教室)

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 8

回収数 8

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏ま
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	0	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	8	0	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8	0	0	0		
	日本人職員とブラジル人職員の	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8	0	0	0		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7	1	0	0		
	日本人職員と外国人で構成	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	0	0	0		
保護者への説明等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	7	1	0	0		
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	1	0	0		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	7	1	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	0	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	0	0	0		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	1	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	1	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	0	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	0	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	0	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	8	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」湖西校（第2教室）		2026年 2月 14日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		<input type="radio"/>	職員同士で役割分担し、必要に応じて応援体制を取っている。	1名欠勤すると支援が回りにくくなるため、人員配置の見直しが必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		<input type="radio"/>	管理者を中心に振り返りは実施している。	全職員が参加できる仕組みづくりが必要。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		<input type="radio"/>		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		<input type="radio"/>		アセスメントの質を高めるため、標準化された評価ツールや日常観察の記録を体系的に活用し、職員間で共有する体制を強化する。これにより、支援計画の内容をより具体的かつ個性性の高いものとし、実際の支援に反映させる
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		<input type="radio"/>		児童発達支援管理責任者を中心に支援計画を作成しているが、支援に関わる職員とも情報共有を行い、可能な範囲で意見交換を実施している。今後は、より多くの職員が計画作成の検討段階から参画できるよう、体制の強化を
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。		<input type="radio"/>	児童発達支援計画は職員間で共有されているが、内容の理解や活用に差が生じることがある。	計画に沿った支援をより確実に行うため、ミーティングでの確認や共有方法の見直しを進めている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		<input type="radio"/>		ガイドラインを踏まえて必要な項目は設定しているが、支援内容が抽象的になる場合があるため、今後はより具体的で分かりやすい計画作成に改善していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>			

快	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		○	子どもの発達段階や興味に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせ、計画的に支援を行っています。個別での課題練習の後、集団活動で社会性や協調性を育むようにしています。	活動内容や時間配分の調整がまだ十分でない場合があります。さらに個別のニーズに沿った柔軟な計画作りが必要です。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		○	支援開始前に職員全員で打合せを行い、その日の支援内容や役割分担を確認しています。個別の配慮が必要な子どもについても情報を共有し、チームで連携して支援を行っています。	：急な変更や予期せぬ状況が発生した場合の対応がスムーズに行えるよう、さらに臨機応変な連携方法を整備する必要があります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	共有事項の記録やフォローアップが十分でない場合があるため、記録方法や情報の引き継ぎをさらに整備する必要があります。	必要であれば、これを簡潔なチェックリスト形式に変換して、現場で使いやすくとめることもできます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		○	定期的にモニタリングを実施し、子どもの発達状況や支援への反応を確認しています。必要に応じて児童発達支援計画を見直し、個別のニーズに合わせた支援内容の調整を行っています。	モニタリングの記録や分析をさらに体系化し、計画の見直しに活かす仕組みを強化する必要があります。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	関係機関との情報共有や連携の必要性は認識しており、できる限り連絡を取るようにしています。	地域の保健・医療、福祉、保育、教育等の関係機関との連携体制がまだ十分ではなく、情報共有や協力の仕組みを整備する必要があります。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○		学校側の情報提供のタイミングや内容にばらつきがある場合があるため、より計画的な情報交換の仕組みを整備する必要があります。
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	○			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○			
	31	(31は、事業所のみ回答)	○			
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	保育所や幼稚園、認定こども園との交流の必要性は認識しており、機会が持てるよう調整を試みています。	地域の他の子どもとの交流や活動の機会が十分でないため、今後は関係機関との連携を強化し、交流の場を計画的に設ける必要があります。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	家族支援プログラムや研修、情報提供の重要性は認識しており、参加の機会を設けられるよう調整を試みています。	家族が参加できる研修やプログラム、情報提供の機会が十分でないため、今後は計画的に家族支援の体制を整備する必要があります。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	<input type="radio"/>			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		<input type="radio"/>	保育所や幼稚園、認定こども園との交流の必要性は認識しており、機会が持てるよう調整を試みています。	地域の他の子どもとの交流や活動の機会が十分でないため、今後は関係機関との連携を強化し、交流の場を計画的に設ける必要があります。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	<input type="radio"/>			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	<input type="radio"/>			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	<input type="radio"/>			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	<input type="radio"/>			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	<input type="radio"/>			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	<input type="radio"/>			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	<input type="radio"/>			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	<input type="radio"/>			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	<input type="radio"/>			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	<input type="radio"/>			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	<input type="radio"/>			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	<input type="radio"/>			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		<input type="radio"/>	身体拘束の必要性や手順について、職員間で情報共有し、事前に子どもや保護者に十分説明できるよう準備しています。	組織的な決定手順や児童発達支援計画への記載、保護者への事前説明・同意の仕組みが十分に整っていないため、今後は体制を明確に整備する必要があります。